

夏になると咳が長く続く、それは夏型過敏性肺炎では!!

夏型過敏性肺炎は、西日本を中心に夏季、湿った屋内で繁殖した真菌の胞子を、反復吸入することによって起こります。症状は、咳や発熱、身体のだるさなどで、夏風邪の症状とよく似ているため、病院で夏風邪と診断されることもあります。咳が長く続くことが顕著です。ちょっとした行動でも息切れを起こすこともあります。

や洗面所、バスルームだけでなく、風通しが悪く湿度が高くなる押入れやサッシ、それにエアコン内部にも繁殖するので注意しましょう。

ている場合は入院し、点滴で多量のステロイド薬を3日間ほど投与するステロイドパルス療法を行います。肺炎が長時間続くと、慢性過敏性肺炎と言われ、急激に悪化して呼吸ができなくなることがあり、その場合は半数近くの人が亡くなるとの報告があります。

原因となるカビは室内に生えるトリコスポロンで、吸い込まれたこの胞子が最も細い細気管支や肺胞に入ります。それが繰り返されると、アレルギー反応が起こり肺に炎症が起これるのです。肺胞に炎症が起こるとガス交換が十分に行えないため、息切れが起こったり咳を繰り返します。このトリコスポロンは温度20℃以上、湿度が60%以上になると活発に活動し、夏場の高温多湿になるほど繁殖し、たくさん胞子を飛ばします。真夏を中心に6月から9月にかけて、注意する必要があります。このトリコスポロンはキッチン

(2) 夏型過敏性肺炎の予防対策は？

夏型過敏性肺炎を予防するためには、原因となるカビのトリコスポロンを除去する必要があります。キッチンや洗面所の場合は、水はねをきれいに拭き取るように雑巾を用意しておいて、気付いたら拭くようにしましょう。トリコスポロンを取り除くためには、酸素系などの洗剤を利用することも有効です。バスルームは入浴後に熱いお湯を壁にかける、窓を開けて風を通すようにします。もし、乾燥機があればさらに効率よく湿気を取り除くことができます。

毎年、梅雨前後のじめじめした季節になると咳が出て、長引く中、旅行などで数日家を離れると症状が軽減するが、家にもどると咳が止まらなくなるという方は、夏型過敏性肺炎の発症を疑ったほうがいいのかもれません。早めに、呼吸器内科を受診しましょう。

(1) 夏型過敏性肺炎の原因は？

夏型過敏性肺炎の治療

夏型過敏性肺炎は、軽症な場合には原因となるアレルギーを避けるだけで大幅に軽快します。中等度以上では、のみ薬のステロイド薬を短期間使用します。呼吸困難を起こしている場合は入院し、点滴で多量のステロイド薬を3日間ほど投与するステロイドパルス療法を行います。肺炎が長時間続くと、慢性過敏性肺炎と言われ、急激に悪化して呼吸ができなくなることがあり、その場合は半数近くの人が亡くなるとの報告があります。

(3) 夏型過敏性肺炎の治療

(注意) アトピーや気管支喘息、花粉症などを起こす人をアレルギー体質と言いますが、過敏性肺炎はそうした病気とはまったく別のアレルギーで、アレルギー体質の人が起こしやすいわけではありません。

期間使用します。呼吸困難を起こしている場合は入院し、点滴で多量のステロイド薬を3日間ほど投与するステロイドパルス療法を行います。肺炎が長時間続くと、慢性過敏性肺炎と言われ、急激に悪化して呼吸ができなくなることがあり、その場合は半数近くの人が亡くなるとの報告があります。